2026年コンプライアンスアンケート【チーム管理者】実施結果

2026年11月
日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

(公財)日本ラグビーフットボール協会

コンプライアンスアンケートについて

1. 目的

- 登録チームにおけるコンプライアンス遵守の現状及び課題の把握し、今後の施策立案に活用する。
- アンケート結果を登録チームに共有し今後の取り組み強化を働きかける。
- インテグリティ相談窓口を周知する。

2. 概要

1. 期　間：2026年3月16日～8月31日
2. 対　象：JRFUに登録している全チーム
3. 回　答：2364件※（1772チーム）/2555チーム(チーム回答率69%)
   ※同一チームから複数回答あり
4. 方　法：Microsoft Forms／記名式
5. その他：2026インテグリティ推進講習会の受講後アンケートとして実施

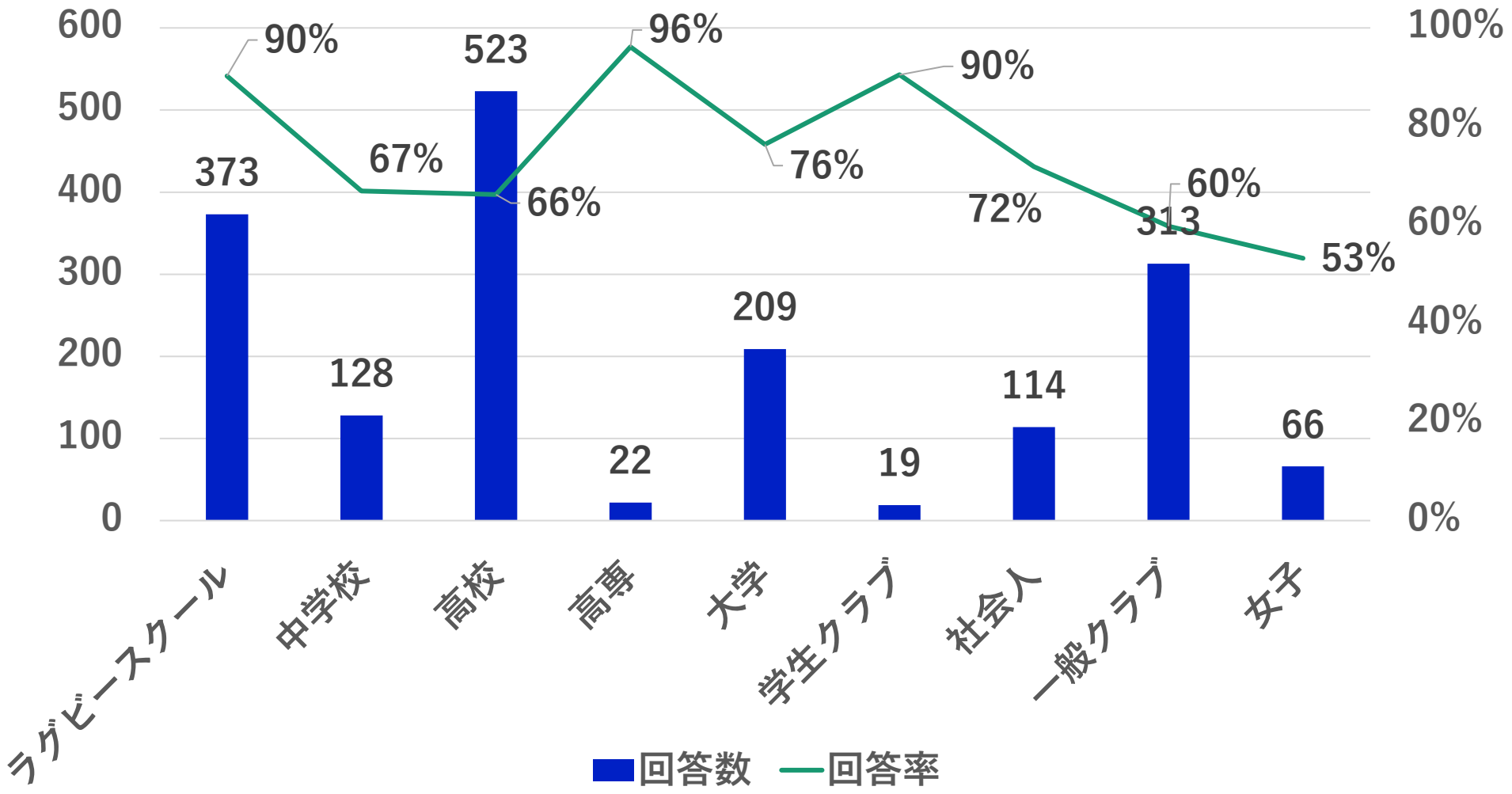
Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

1. 属性調査

アンケート回答者の属性について、チームのカテゴリーや所属都道府県協会、チーム内の役割を調査しました。

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

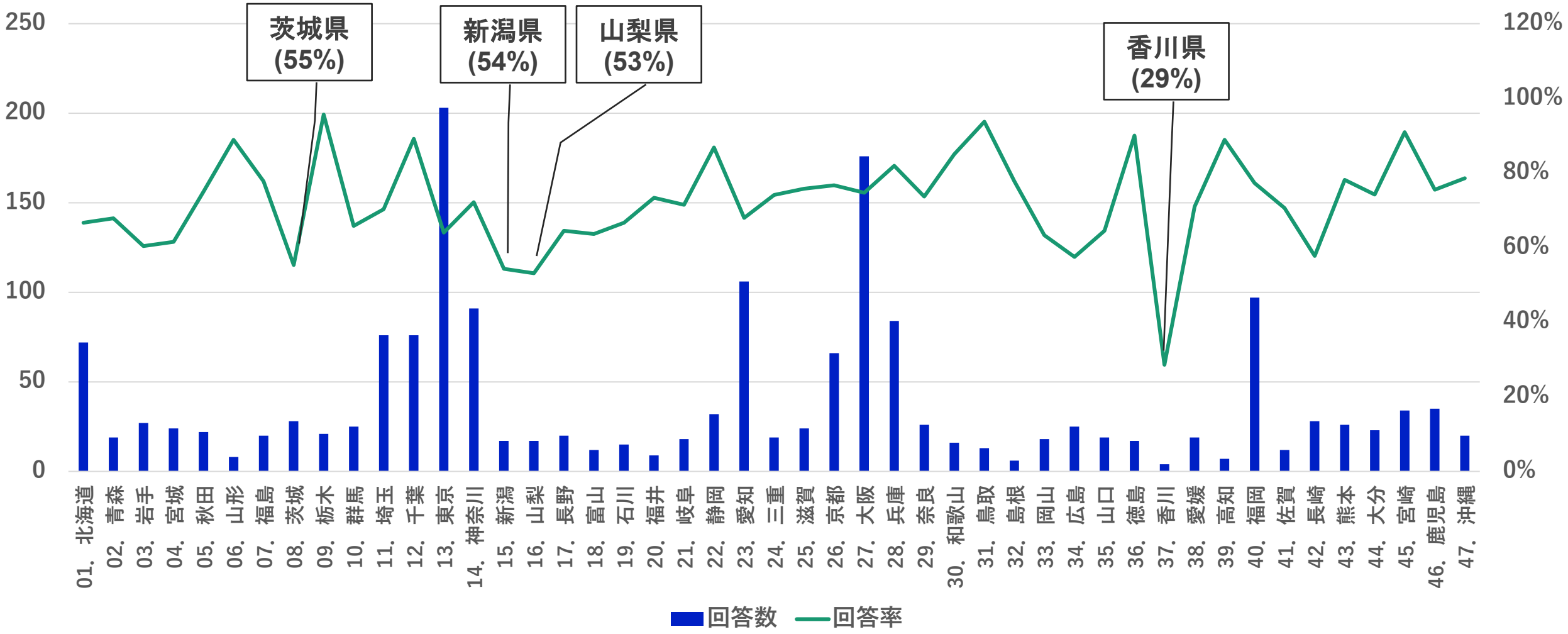
所属カテゴリー



- ラグビースクール(90%)、高専(96%)、学生クラブ(90%)で回答率が高い

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

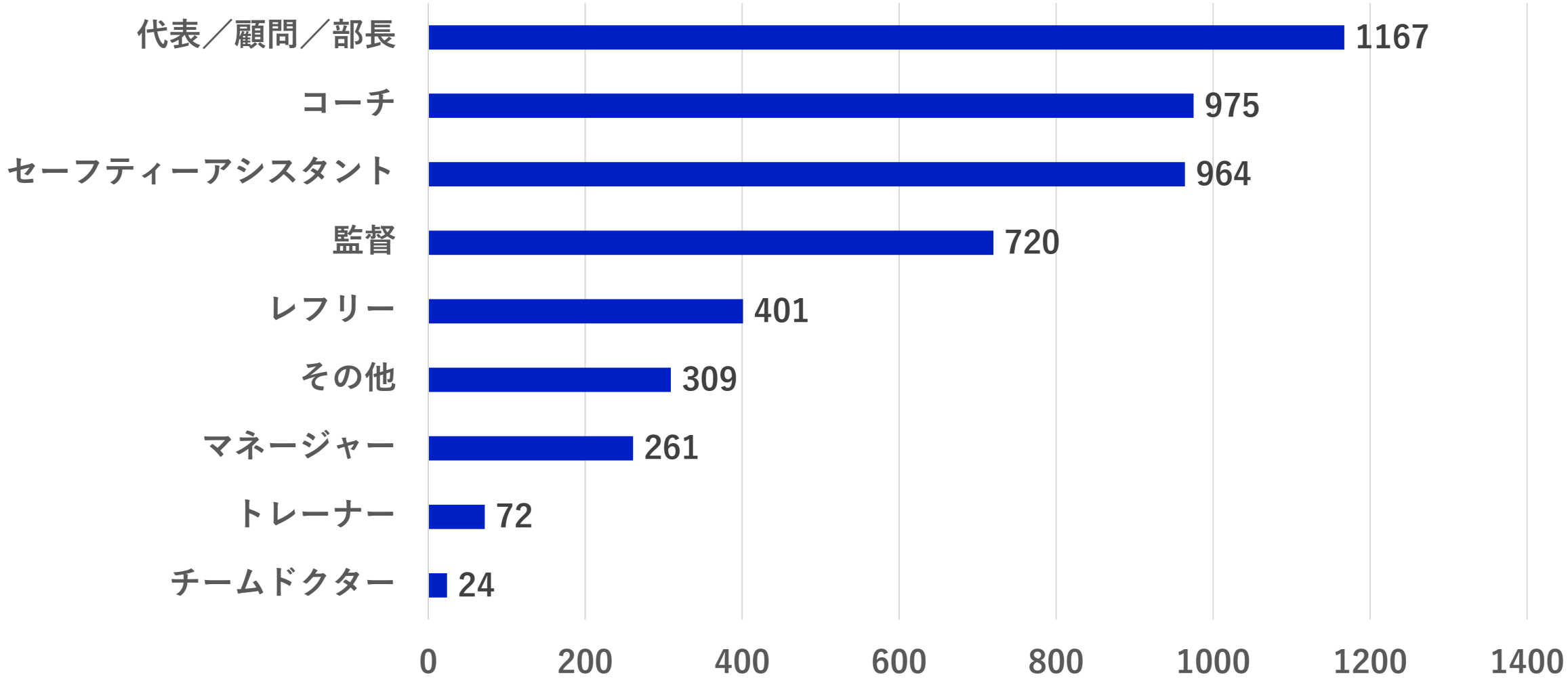
所属都道府県協会



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

回答者のチーム内での役割

※回答者が、複数の役割を兼務している場合には、複数の役割が選択されている。



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

2. インテグリティ推進講習会

ビデオ視聴方式による講習会について、各項目の役立った点・改善点、今後に向けた要望を調査しました。

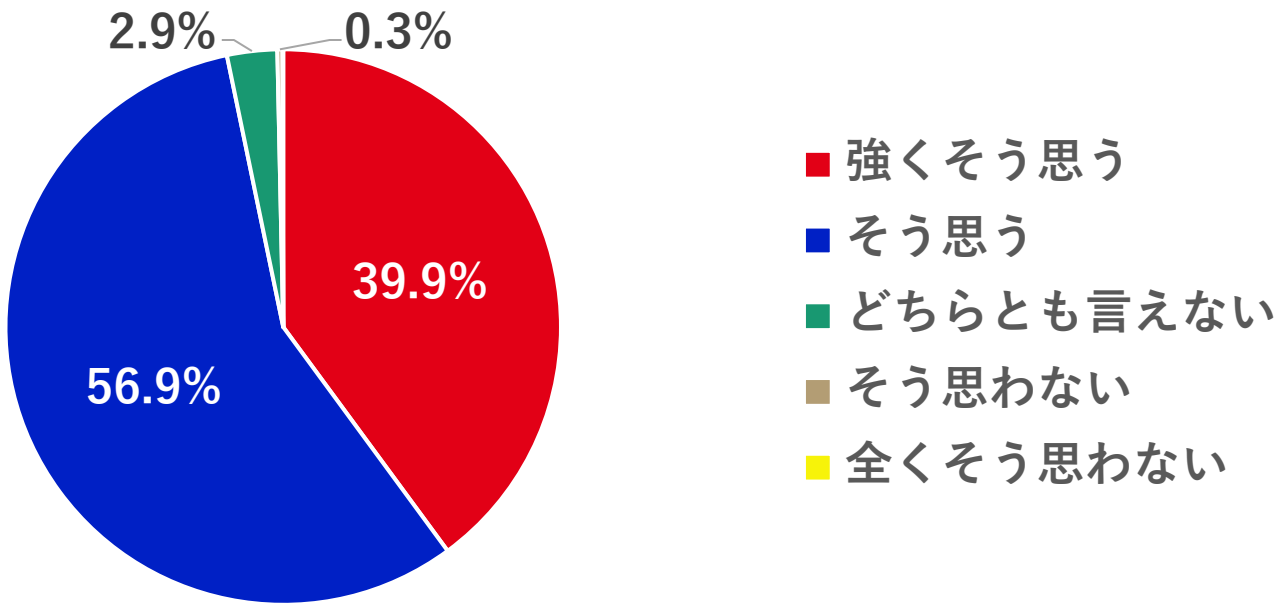
Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

【参考】インテグリティ推進講習会の内容

1. 挨拶（岩渕専務理事）
2. インテグリティの取り組みのお願い（渡辺インテグリティ推進部門長）
3. 相談窓口での事例から（椿原弁護士）
4. SNSとの向き合い方（㈱トレンシス上田様）
5. スポーツの価値とアンチ・ドーピング（アンチ・ドーピング委員会関水委員長）
6. コンプライアンスアンケート

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

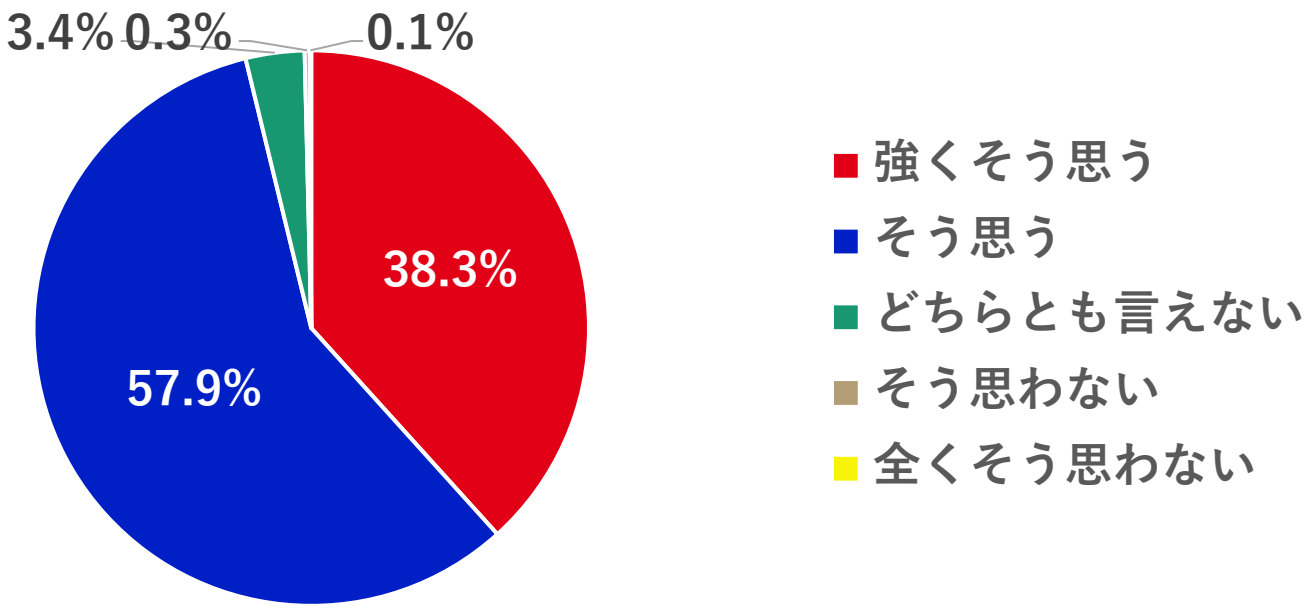
講習会の内容に満足したか



「強くそう思う」「そう思う」と回答したチームが約97%で、例年通り満足度はかなり高かった

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

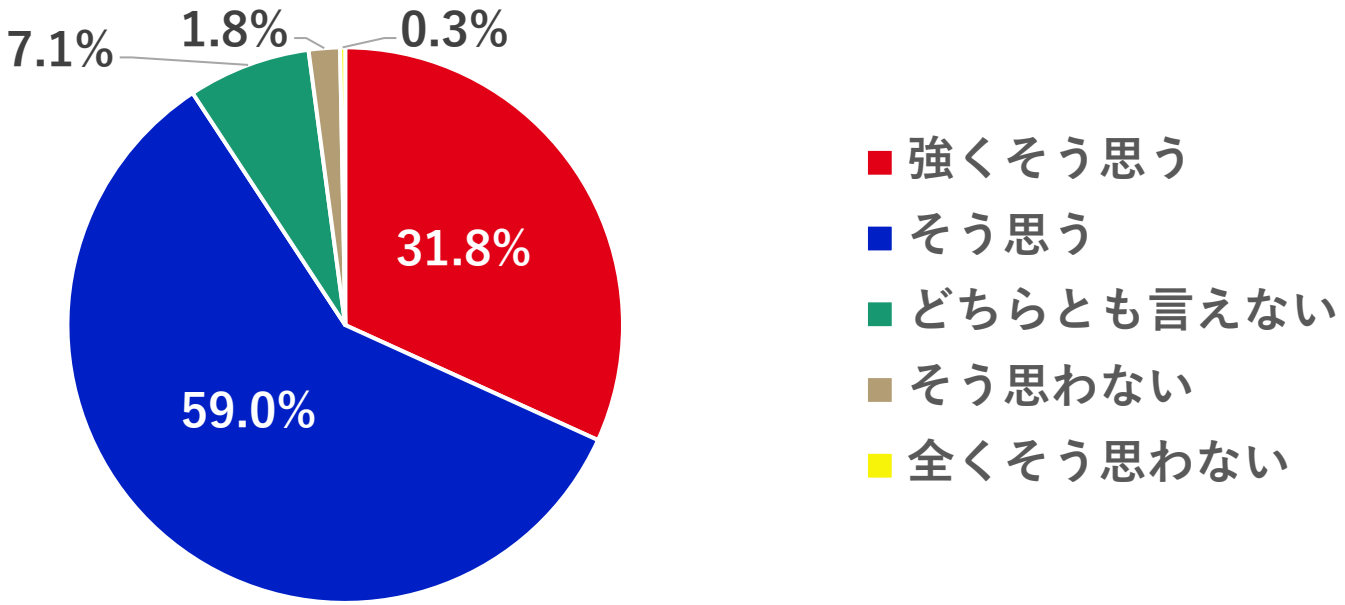
内容は整理・計画されていたか



「強くそう思う」「そう思う」と回答したチームが約91%で、例年通り内容は良く整理されていたといえる

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

学習量は適切だったか



「強くそう思う」「そう思う」と回答したチームが90.2%で、
昨年から微増したものの量については改善の余地がある

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

動画「インテグリティへの取り組みのお願い」へのご意見

インテグリティ

- 5つのコアバリュー（品位/情熱/結束/規律/尊重）の重要性を再認識できた
- インテグリティが土台であると理解できた
- 競技中だけでなく、日常生活でも品位ある行動が必要だと感じた
- 単にルールを守るのではなく、迷ったときに正しい行動を選択する姿勢が重要である

具体的な事例

- 実際の違反事例が示され、問題を自分事として考えられた
- 処分内容まで紹介され、行為の重大性を理解しやすかった
- 年代やカテゴリー別の傾向から、自チームのリスクを確認できた
- ヒヤリハットの段階で対応する重要性を理解できた
- 具体的なアクションが示され、現場で何をすべきか迷わない

自身の振り返り

- 指導者として自分の言動を振り返る機会になった
- 個人の軽率な行動が、チームの信頼やラグビーというスポーツの価値そのものを損なう可能性があることを再認識した
- 選手への声掛けや指導方法を見直したい
- チーム全体で共通の行動基準を持ちたい

参考情報の紹介

- 相談窓口やセーフガーディングの情報が参考になった
- 紹介された資料をチーム内研修で活用したい
- 問題が起きた際の相談先を確認できて安心した
- 関連情報が一か所に整理されており活用しやすいと感じた

要望・提言

- グレーゾーンの行動について、もう少し具体的なケーススタディがほしい
- カテゴリーや年代別の事例を増やしてほしい
- チーム内で共有するため、カテゴリー別の短い資料がほしい
- 再受講者向けに要点を絞った短い動画を用意してほしい
- 対面に戻してほしい

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

動画「相談窓口での事例から」へのご意見

具体的な事例・判断基準

- 実際の相談事例が紹介され、現場の状況をイメージしやすかった
- ハラスメントに該当するかどうかの判断基準が分かりやすかった
- 適切な指導と不適切な指導の境界を整理できた
- 法律や社会通念を踏まえて判断する必要性を理解できた

ハラスメント・適正な指導

- パワハラの3要件が示され、自分たちの活動に照らして考えられた
- 熱心な指導でも、過度な要求になり得ることに気づいた
- 日頃の声掛けや叱り方を見直すきっかけになった
- 能力に対して過小な役割しか与えないこともハラスメントにあたると認識できた

相談窓口の重要性と安心感

- 個人やチームだけで抱え込まず、早めに相談することが重要だと分かった
- 外部の相談窓口があることに安心感を持てた
- 選手や保護者にも相談窓口の存在を周知したい
- 相談窓口が問題の抑止にもつながると感じた

スポーツ現場における「優位性」

- 指導者と選手の間には優位性が生じやすいと再認識した
- 先輩と後輩、保護者コーチとの関係にも注意
- 受け手との関係性や立場の差を考慮する必要があると感じた
- 小中学生の年代で過大な競技志向、活動量を強いることも問題だと認識できた

要望・提言

- 相談から解決までの具体的な対応例を紹介してほしい
- 年代やカテゴリーが異なる事例も増やしてほしい
- 通報後の調査やプライバシーへの配慮を説明してほしい
- 正当な指導が誤解された事例も取り上げてほしい
- 再受講者向けに簡略化してほしい

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

動画「社会からの信頼を確保するために」へのご意見

社会的信頼

- ラグビーは「する人」だけでなく、「みる人」「ささえる人」との信頼で成り立っている
- 不祥事一つでチームが廃部に追い込まれる現実を再認識した
- 個人の軽率な行動がラグビー界全体の社会的信用を失墜させるリスクを再認識した

自分の判断基準

- 周囲に流されず、自分で正しい行動を判断することが重要だと分かった
- 誘惑や曖昧な状況でも断る基準を持つ必要がある
- ルールだけでなく、倫理面も考えて行動したい
- 日頃から自分の価値観と行動を振り返りたい

不正のトライアングル

- 不正が「機会・動機・正当化」から生じることを理解できた
- 不正を個人の性格だけでなく、環境の問題として考えられた
- 不正が起こる機会を組織として減らす必要がある
- 小さな正当化を見逃さないことが予防につながると感じた

ハインリッヒの法則

- 重大な事故の前には小さな兆候があることを意識したい
- 「ヒヤリ・ハット」や予兆を見逃さず、早期に対処したい
- 気になる言動を見過ごさず、声を掛けたい
- 相談しやすい環境を作り、問題を早期に把握したい

要望・感想

- 選手・保護者と一緒に話し合えるワークの時間がほしい
- 例え話が多く視覚的にも分かりやすかった
- 子供にも見せたい
- 「来年、自分のチームが存在しているか」という問いかけに衝撃を受けた

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

動画「スポーツの価値とアンチ・ドーピング」へのご意見

スポーツの価値と公平性

- ドーピングが競技の公平性と信頼を損なうことを理解できた
- アンチ・ドーピングはトップ選手だけの問題ではないと分かった
- 正々堂々と競技することがスポーツの価値を守ると再認識した
- 選手の健康を守るためにも必要な取り組みだと感じた

意図しない違反への注意

- 市販薬や風邪薬でも違反になる可能性があることに驚いた
- 処方薬を使用する場合も事前確認が必要だと分かった
- 悪意がなくても違反となるため、自己判断を避けたい
- 体調不良時の薬の使用についてチーム内で周知したい

教育の重要性

- 選手が最初に触れるのは検査ではなく「教育」であるべきと認識できた
- ジュニア期からアンチ・ドーピング教育を始めたい
- 選手だけでなく、保護者や指導者も正しい知識を持ちたい

確認手段

- Global DRO、クリーンアスリートガイドなどの具体的な情報提供ツールの紹介が有用だった
- JRFUの医薬品問い合わせフォームを知ることができた
- 禁止物質の最新情報を継続的に確認したい
- 問い合わせ先を選手や保護者にも伝えてほしい

要望/提言

- 中高生にも理解できる教材を用意してほしい
- 選手、指導者、保護者が一緒に学ぶ機会を増やしてほしい
- 「これだけは絶対に避けるべき成分名」や「一般薬でのNGリスト」など、より簡易な早見表がほしい
- 意図しないドーピングを防ぐ方法を知りたい

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

講習会の改善点について

時間・分量

- 全体の時間を短くし、重要な点に絞ってほしい
- 倍速再生したい
- 再受講者には前年度からの変更点を中心に示してほしい
- 短い単元に分け、空いた時間に受講できるようにしてほしい

システム

- 途中で中断しても続きから再開できるようにしてほしい
- セッション切れや再ログインの負担を改善してほしい
- 対面、ライブ配信、録画視聴を選べるようにしてほしい

内容

- ラグビー現場で実際に起きた事例を増やしてほしい
- 事案発生後の対応や再発防止策まで紹介してほしい
- 判断に迷うケースを使ったケーススタディを取り入れてほしい
- よい事例も紹介してほしい

カテゴリー・対象別

- カテゴリー特有の問題を具体的に取り上げてほしい
- 選手、指導者、保護者それぞれに適した教材を作ってほしい
- 中高生向けの講習会を開いてほしい

その他の要望・提案

- 簡単な確認問題や参加型の内容があるとよい
- 要点をまとめた資料があると振り返りやすい
- 誰でもアクセスできるようにする
- 第三者の専門家を定期的に入れ替えるなど、複数の視点を取り入れるべき
- 最新の情報へのアップデート

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

講習会で取り上げてほしいテーマ

事例と対処法

- 最新のコンプライアンス違反事例と具体的な対応方法
- コンプライアンス違反の発生から処分、活動再開までの流れ
- 問題を未然に防いだ事例やヒヤリハット
- 実際の現場で起こりやすい事例をもとにしたケーススタディ

カテゴリー別の内容

- 学校、大学、社会人チームなどカテゴリー固有の問題を整理してほしい
- ジュニアチームにおける保護者対応
- 選手、指導者、保護者の立場別の注意点
- 世代に合わせたコミュニケーション方法

ハラスメント・指導

- 指導とハラスメントの境界を具体的に学びたい
- 勝利至上主義や高圧的指導の問題
- アンガーマネジメントや適切な叱り方
- 心理的安全性を確保するコーチング方法
- 現場に介入しすぎるOBへの対応

SNS

- SNSへの不適切投稿や誹謗中傷の事例
- 写真、動画、個人情報を扱う際のルール
- チーム公式アカウントの適切な管理方法
- 選手や保護者にも使えるSNSガイドライン

その他

- 違法薬物や大麻に関する予防教育
- 飲酒、喫煙、交通事故に関する事例
- 賭博や金銭問題など、ハラスメント以外のリスク
- 闇バイト等の近年若者が巻き込まれる可能性がある犯罪
- 他競技や一般社会の事例も含めて比較したい

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

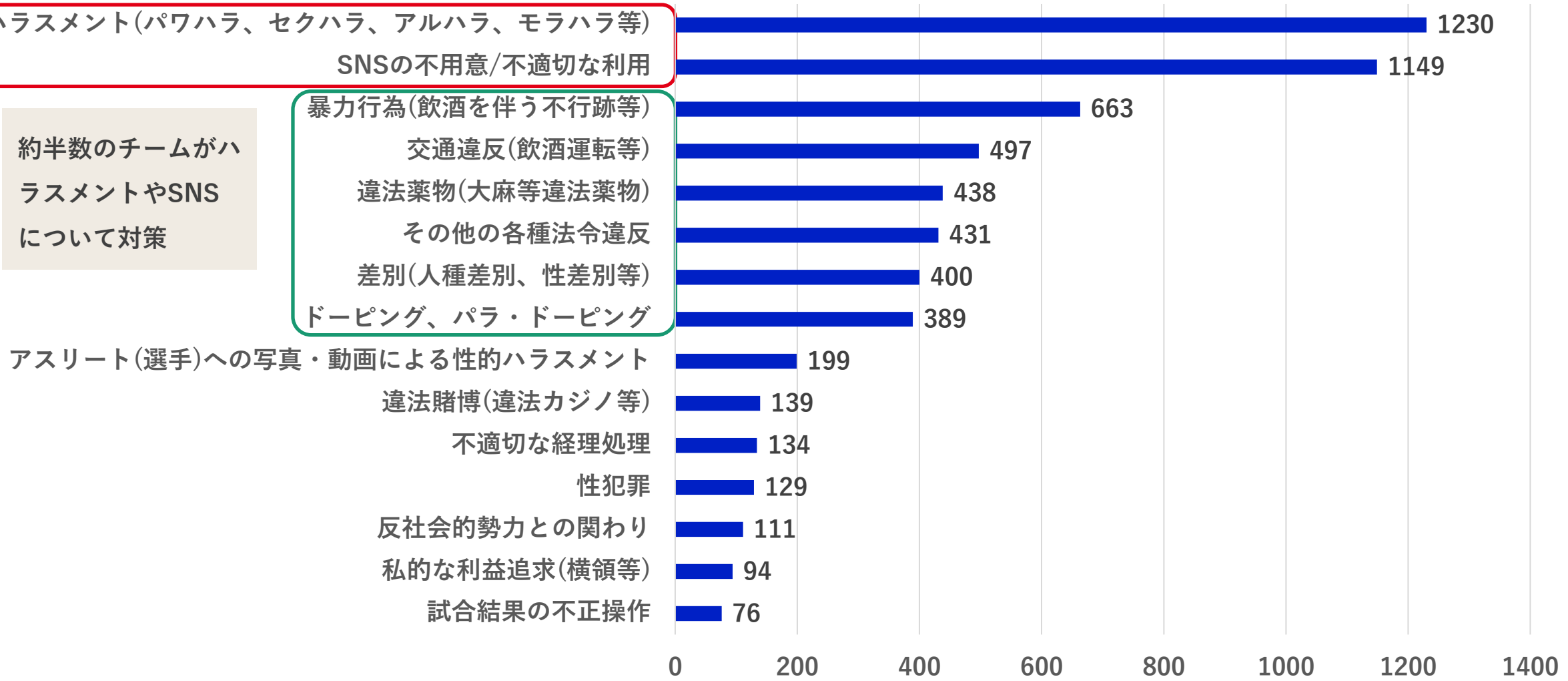
3. コンプライアンス

コンプライアンス遵守に対する意識と取り組み、実際に起きた・見た・聞いたコンプライアンス違反事例を調査しました。

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

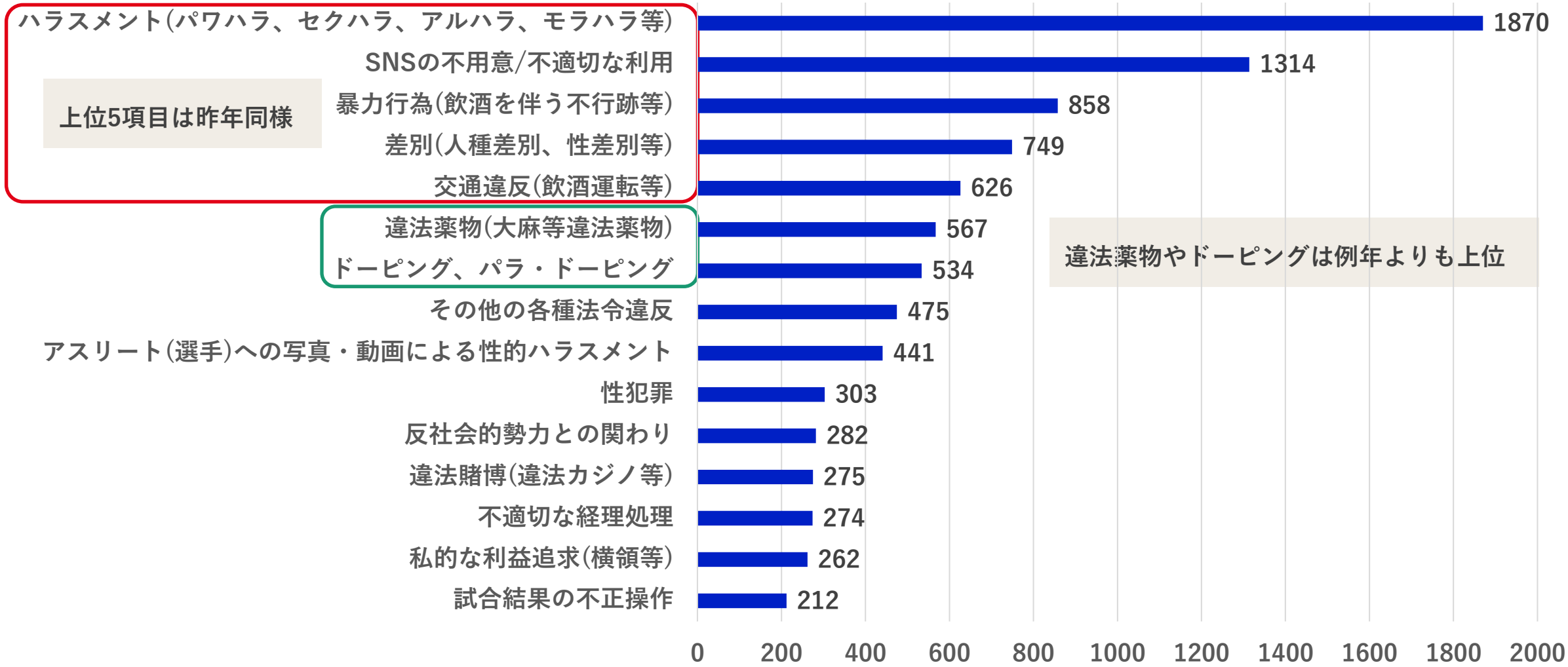
チームで注意喚起や研修等を実施したテーマ

約半数のチームがハラスメントやSNSについて対策



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

チームで取り組みたいテーマ



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

チームでの注意喚起・研修の具体的な方法

ミーティング・会議

- 継続的・定期的なミーティング
- コーチ・指導者会議
- 年度の初めにオリエンテーション
- チームの方針と禁止事項を確認
- 実際の事例を使い、自分たちにも起こり得る問題として話し合う

研修・勉強会

- 指導者を対象とした研修や勉強会
- 協会の動画をチームで視聴し、内容を共有
- 外部セミナーや専門家による講習
- 学校での「薬物乱用防止教室」や「SNS利用に関する講演」
- 会社での研修

ルール・行動規範の明文化

- チーム規則や部則にコンプライアンス事項を記載
- 指導者と選手の行動基準を文書で明確にしている
- SNS、飲酒、暴力、ハラスメントのルールを具体的に定めている
- 入会時や年度初めに規則を確認し、同意を得ている

選手・保護者・スタッフへの展開

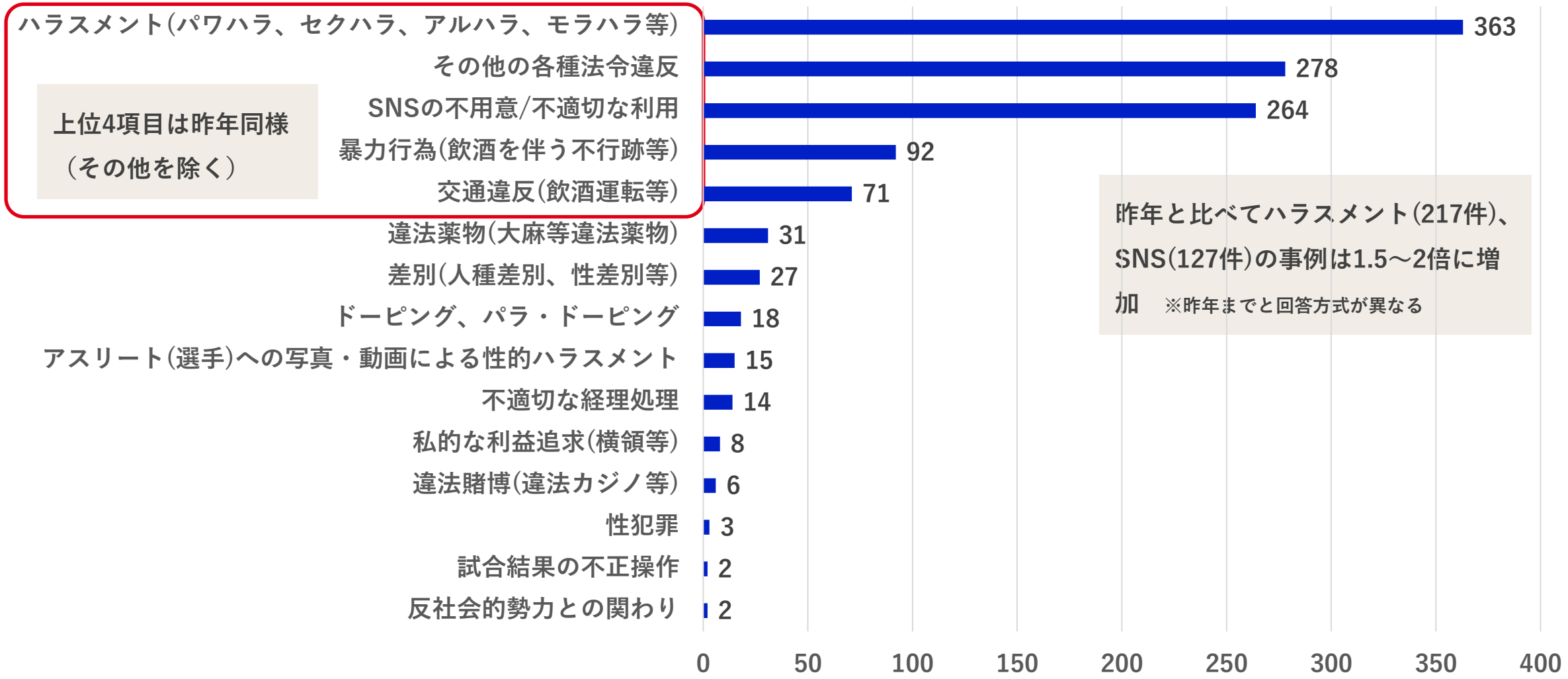
- 受講した内容をコーチやスタッフ全員に共有
- 選手にも年齢に応じた言葉で説明
- 保護者会や連絡網、お便りを通じて注意事項を周知
- 外国人選手が合流した際に個別に説明
- インテグリティー相談窓口のリンクをHPに記載

その他

- チーム内に相談担当者や相談窓口を設置
- 定期的なアンケートや面談で問題の兆候を確認
- 一人で判断せず、複数の指導者で状況を確認
- ヒヤリハットを共有し、再発防止策を話し合う

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

過去3年以内に起きた・見た・聞いた事例(自チーム)

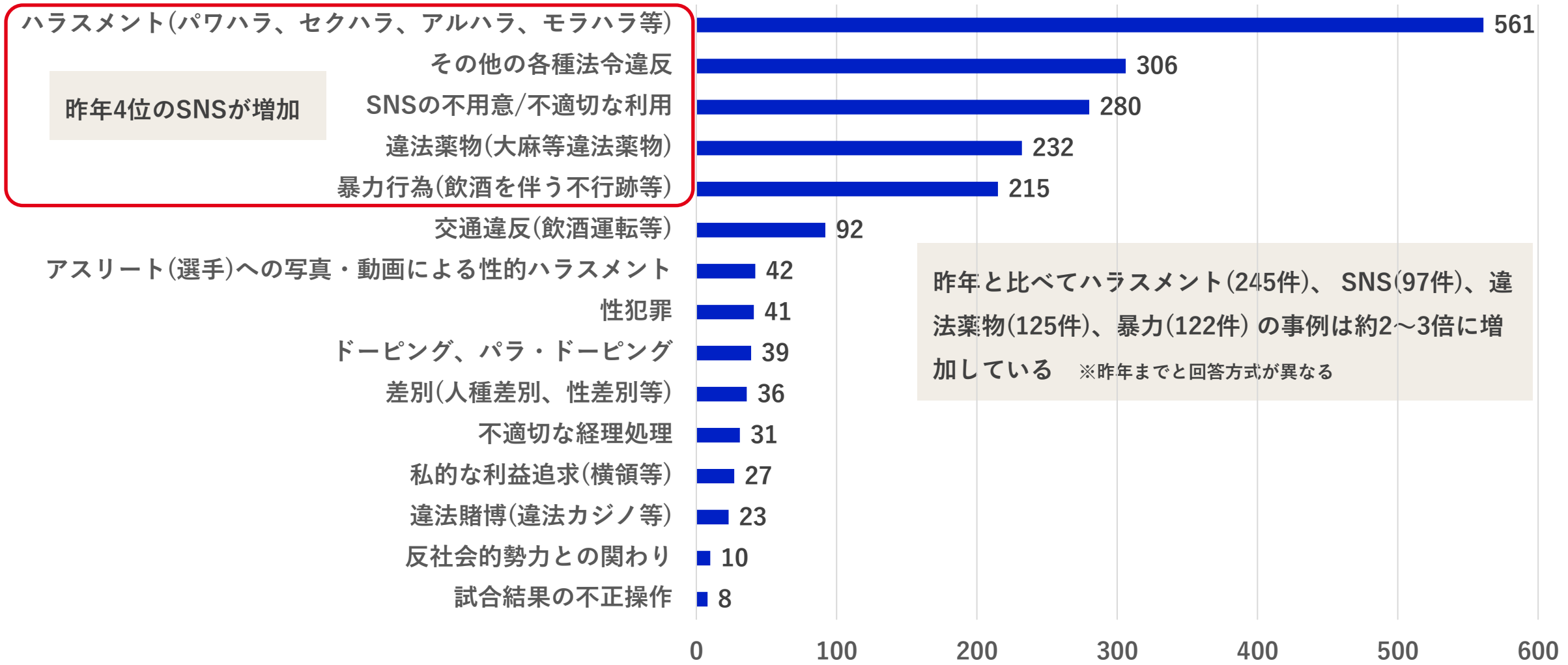


上位4項目は昨年同様
(その他を除く)

昨年と比べてハラスメント(217件)、SNS(127件)の事例は1.5～2倍に増加　※昨年までと回答方式が異なる

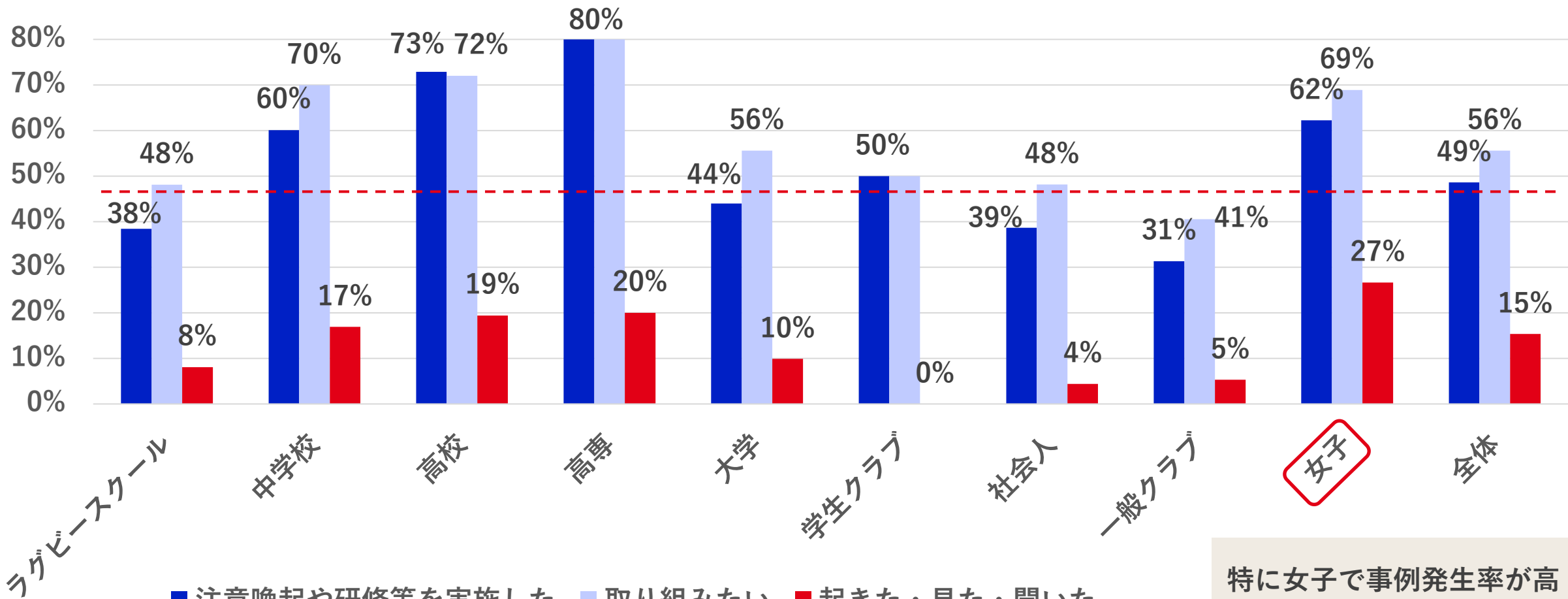
Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

過去3年以内に起きた・見た・聞いた事例(他チーム)



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

SNSに関する事例と取り組み状況



特に女子で事例発生率が高い（昨年は3%）

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

ヒヤリ・ハット事例

指導時の言動

- 試合中に指導者の口調が強くなり、選手が萎縮していた
- ミスをした選手に対して大声で叱責する場面があった
- 熱心な指導が過度な要求や暴言になりかけていた
- 感情的な発言が出たため、周囲が止めて注意した

選手間の言動

- 選手同士のいじりが相手を傷つける場面があった
- 容姿や能力に関する発言がいじめにつながりかけた
- 上級生から下級生への強い言い方があった
- 悪ふざけや仲間外れを早い段階で注意した

SNS

- 選手をからかう内容がSNSに投稿されかけた
- 本人の同意を十分に得ず、写真や動画を共有していた
- 「公式SNS」が顧問の目の届かないところで開設・運用されていた
- クラブで使用しているサービスに政治的な宣伝の広告が入った

飲酒

- 飲酒後の行動がトラブルにつながりかけた
- 飲酒運転や交通違反につながる危険な状況があった
- 懇親会後に自転車で帰宅しようとしたのでタクシーで帰宅させた
- 遠征や合宿時の選手管理が十分でない場面があった

運営・会計

- 会計担当者による不正
- 保護者間の金銭トラブルが活動費の問題に発展した
- 助成金の使途が曖昧だった
- 活動費の私的流用を求められた
- 登録料を抑えるため、未登録者を助っ人として出場させた

その他

- 夏合宿での食育で食事量が多いとの声があり個別に調整した
- 指導の意図が保護者に異なる意味で受け取られた
- 親コーチの試合中の発言を、選手や保護者に聞かれかけた
- 合宿中、女子マネージャーの洗濯物が取り違えられた

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

起きた・見た・聞いた事例（暴力・ハラスメント以外）

指導時の言動

- タックルが上手く出来ない子や、積極的にプレー出来ない子への暴言
- 「殺すぞ」「ボケ」などという脅しともとれる暴言を吐いた
- 外国選手の指導時に「日本語わからないのか」と叱責
- 怒声を上げる

保護者

- 選手起用や指導方針をめぐり、保護者との対立が起きた
- 保護者からの過度な要求やクレームが運営の負担になった
- 保護者コーチの立場と役割が曖昧で問題が生じた

SNS

- 選手やチームに関する不適切な投稿が問題になった
- 写真や個人情報を本人の同意なく共有していた
- グループチャットで特定の人を中傷する発言
- 別のチームの選手を撮影し自身のSNS等に掲載する

飲酒・薬物

- 違法薬物や大麻に関する事案
- 未成年の飲酒・喫煙
- 酒席でのトラブル
- 飲酒運転
- 交通違反

運営・会計

- チーム会計や経費の扱いが不透明だった
- 会費や金銭の管理を一人に任せることに不安がある
- 無登録選手の出場など、競技登録上の問題があった
- 保護者や役員による不正会計と横領

その他

- 他チームの選手がステロイドを使っていると聞いた
- チームと協会関係者がいじめ事案を隠蔽した
- 問題がないと決めつけず、日常的に確認したい

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

違反事案への対応

事実確認・関係者への聞き取り

- 当事者から事情を聞き、事実関係を確認した
- 選手、指導者、保護者それぞれから個別に話を聞いた
- 複数の関係者の説明を確認してから対応を決めた
- 感情的に判断せず、客観的な情報を集めるようにした

注意喚起・共有・再発防止

- 本人に注意・指導を行い、問題点を説明した
- コーチ会議や全体ミーティングで事案を共有した
- チーム規則を再確認し、同様の行為を禁止した
- 研修や勉強会を実施し、再発防止につなげた

謝罪・被害者への対応

- 影響を受けた選手や保護者に謝罪した
- 被害を受けた側の意向を確認し、継続的に対応した
- 学校、地域協会、上部団体へ報告・相談した
- 必要に応じて専門家や第三者を交えて対応した

SNS

- 不適切な投稿や画像を速やかに削除させた
- 本人と保護者に問題点を説明し、再投稿を防いだ
- チーム内でSNSや個人情報の利用ルールを確認した
- 公式アカウントの管理者と投稿手順を見直した

その他

- 問題を起こしたコーチ・選手を除名した

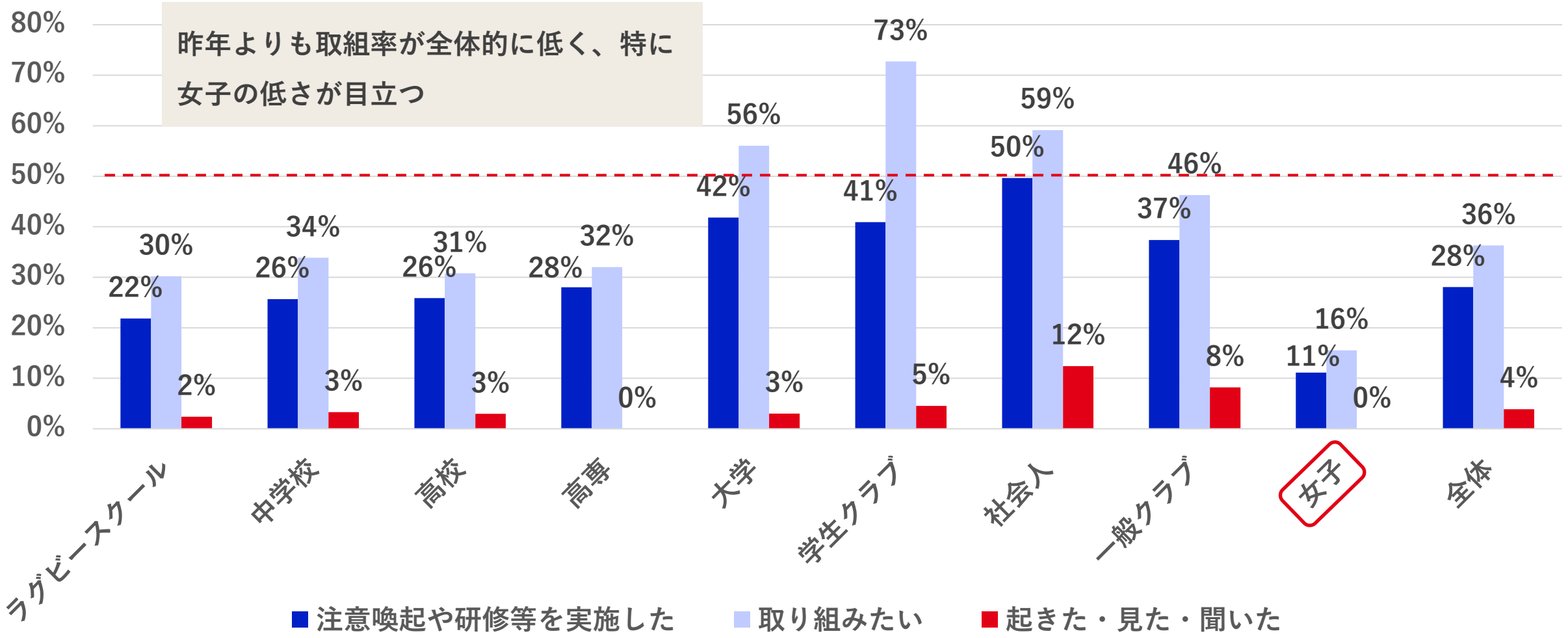
Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

4. 暴力・ハラスメント

日本協会が取り組みを強化している暴力・ハラスメントについて、原因・根絶のための方法、実際の事例を調査しました。

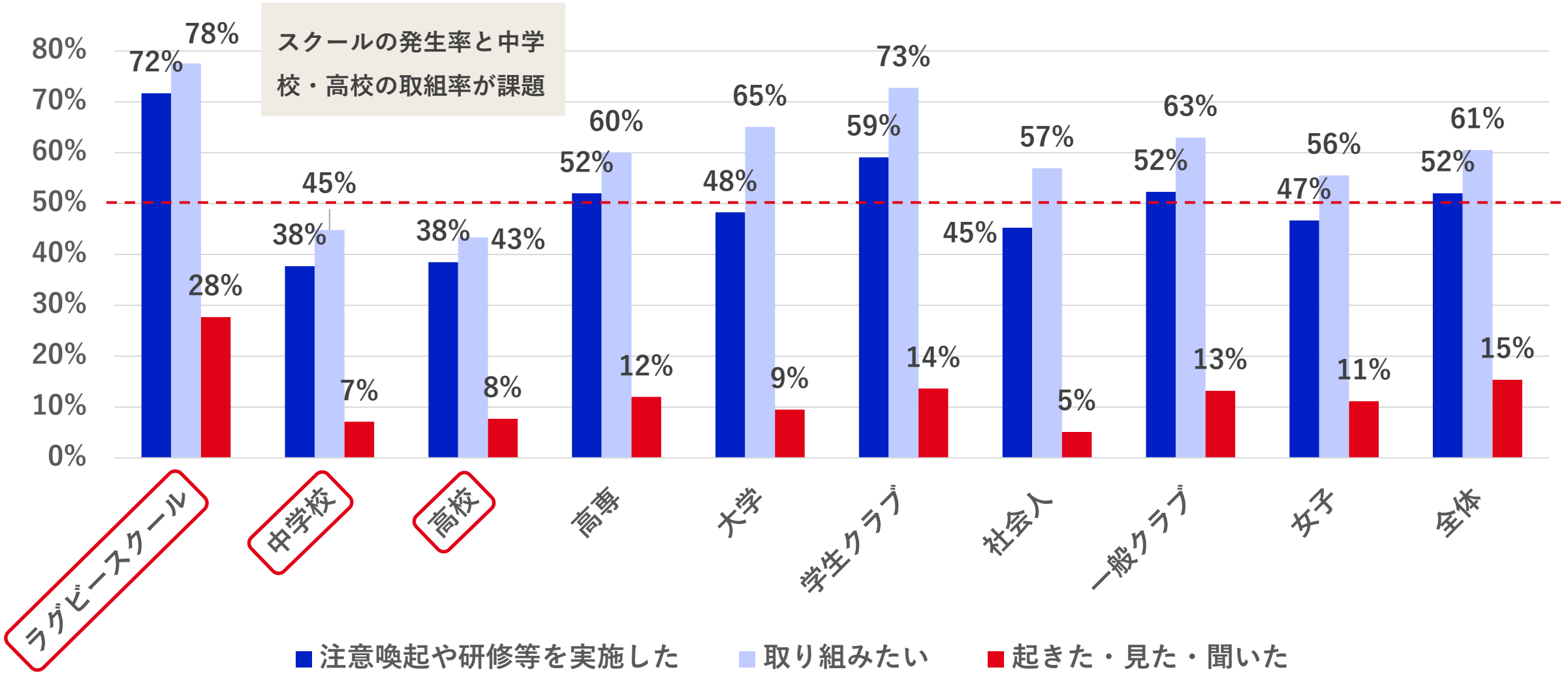
Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

暴力に関する事例と取り組み状況



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

ハラスメントに関する事例と取り組み状況



Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

暴力・ハラスメントの具体的事例

コーチの暴言暴力

- 指導者が選手を怒鳴っていた
- ミスをした選手の人格を傷つける発言
- 選手を萎縮させる高圧的な指導
- 勝敗へのこだわりから、指示や叱責が過剰になっていた
- 選手の頭や身体を叩く行為
- 指導の一環として身体的な罰を与えた
- 保護者コーチの指導が厳しすぎる

ハラスメント

- 食事やトレーニングを過度に強要
- 不必要な身体接触
- 障害を揶揄する言葉を選手に掛けていた
- 指導者の冗談がハラスメントとして受け取られた
- 相手チームの保護者が選手の容姿について発言した
- 差別的な対応により、孤立したと感じる事例があった

選手・チーム内

- 選手同士の暴力や悪ふざけがいじめに発展していた
- 先輩と後輩の関係を利用した嫌がらせがあった
- 特定の選手を仲間外れにする行為があった
- 選手間の行為によって練習に来られなくなった選手がいた

レフリー/試合

- 観客や保護者から選手・レフリーへの暴言があった
- 判定への過度な抗議が試合運営の妨げになっていた
- 「レフリー邪魔だよどけ」と言いながらレフリーにぶつかってくる行為
- レフリーに対する暴力をみた(掴みかかり、レフリーの衣服が破れる)
- レフリングに関するパワハラ・モラハラ

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

暴力・ハラスメントの原因は？

組織構造

- 指導者が選手より優位な立場にあることを自覚していない
- 強い上下関係の中で、下の立場から意見を言いにくくなっている
- 閉鎖的な組織では、不適切な指導が外部から分かりにくい
- 昔からの指導方法を正しいものとして続けてしまっている

勝利至上主義

- 勝つことを優先しすぎると、選手への要求が過度になる
- 選手が期待どおりに動かないことが指導者の苛立ちにつながる
- 短期的な結果を求めるプレッシャーが感情的な指導を生む
- 選手の成長段階や個性を無視した目標設定が問題を引き起こす

感情・ストレス

- 指導者が焦りや怒りを抑えられないこと
- 仕事や私生活のストレスが指導場面に持ち込まれている
- 試合中の興奮によって、普段はしない言動が出てしまう
- アンガーマネジメントを学ぶ機会が不足している

対話不足

- 指導者と選手の対話が不足し、意図や受け止め方にずれが生じる
- 相手の立場や気持ちを考えず、一方的に指導している
- 日頃の信頼関係が弱いと、指導が攻撃的に受け止められる
- 選手を一人の人間として尊重する意識が不足している

指導知識不足

- 適切な指導方法を学ばないまま指導者になっている
- 一人の指導者に権限が集中し、周囲が止められない
- 問題を指摘・相談できる仕組みが整っていない
- 研修や第三者による確認がなく、不適切な行為が繰り返される

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

暴力・ハラスメントを根絶するには？

意識変革

- 勝敗よりも選手の安全と成長を優先したい
- ラグビーのコアバリューを日常の指導で実践したい
- 選手を一人の人間として尊重することを徹底したい
- 指導者や保護者など、大人が模範となる行動を示したい

組織文化

- 勝利や根性論を優先する古い指導文化を見直したい
- 選手が楽しみながら成長できる環境を重視したい
- トップチームや代表関係者が模範を示してほしい
- 結果だけでなく、指導過程や選手の安心感も重視してほしい

研修・啓発

- 指導者だけでなく、選手や保護者も定期的に研修を受ける必要がある
- 一度の講習で終わらせず、毎年繰り返し確認したい
- 実際の事例を使い、自分事として考える研修にしてほしい
- 年代や立場に合った教材を継続的に提供してほしい

相談しやすい環境

- 選手や保護者が安心して声を上げられる窓口を設けてほしい
- 匿名で相談できる仕組みを整えてほしい
- 第三者がチームの状況を確認する仕組みを作ってほしい
- 複数の指導者で現場を確認し、一人に権限を集中させないでほしい

厳罰化・明文化

- 暴力やハラスメントに当たる行為を具体的に示してほしい
- 問題発生時の報告手順と対応基準を明確にしてほしい
- 重大な違反には資格停止や剥奪を含む厳正な処分が必要
- 処分だけでなく、再発防止教育まで制度化してほしい

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

5. 風通しのよいチームづくり

風通しのよいチームや組織をつくるために取り組んでいることを調査しました。

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

風通しのよいチームにするための取り組み

コミュニケーション

- 挨拶や雑談を大切にして話し掛けやすい関係を作っている
- 練習前後に選手一人ひとりへ声を掛けている
- 指導以外の会話も含め、日常的な接点を増やしている
- 小さな変化や悩みに早く気づけるよう心掛けている
- レクを取り入れる

情報共有

- コーチ会議を定期的に開き、指導方針や課題を共有している
- 選手ミーティングで全員が意見を出せる時間を設けている
- 連絡網や議事録を活用し、情報の偏りを防いでいる
- 小さな問題も早めに共有し、複数人で対応している

相談しやすさ

- 個人面談や1on1で、人前では言いにくい話を聞いている
- アンケートや相談窓口を設け、匿名でも意見を出せるようにしている
- 会議では役職や年齢にかかわらず全員に発言を求めている
- 相談しやすい雰囲気づくりを大切にしている

保護者との対話

- 保護者会や説明会を開き、チーム方針を丁寧に伝えている
- 日頃から保護者にも声を掛け、相談しやすい関係を作っている
- 怪我や問題が起きたときは、早い段階で保護者へ報告している
- 保護者からの意見を聞き、指導者間で共有している

選手主体の運営

- 下級生や経験の浅い選手も発言できる雰囲気を作っている
- 複数の指導者で選手を見守り、一人の考えに偏らないようにしている
- 選手自身が目標やルールを話し合う機会を設けている
- 役職や年齢に関係なく、互いを尊重して話し合っている

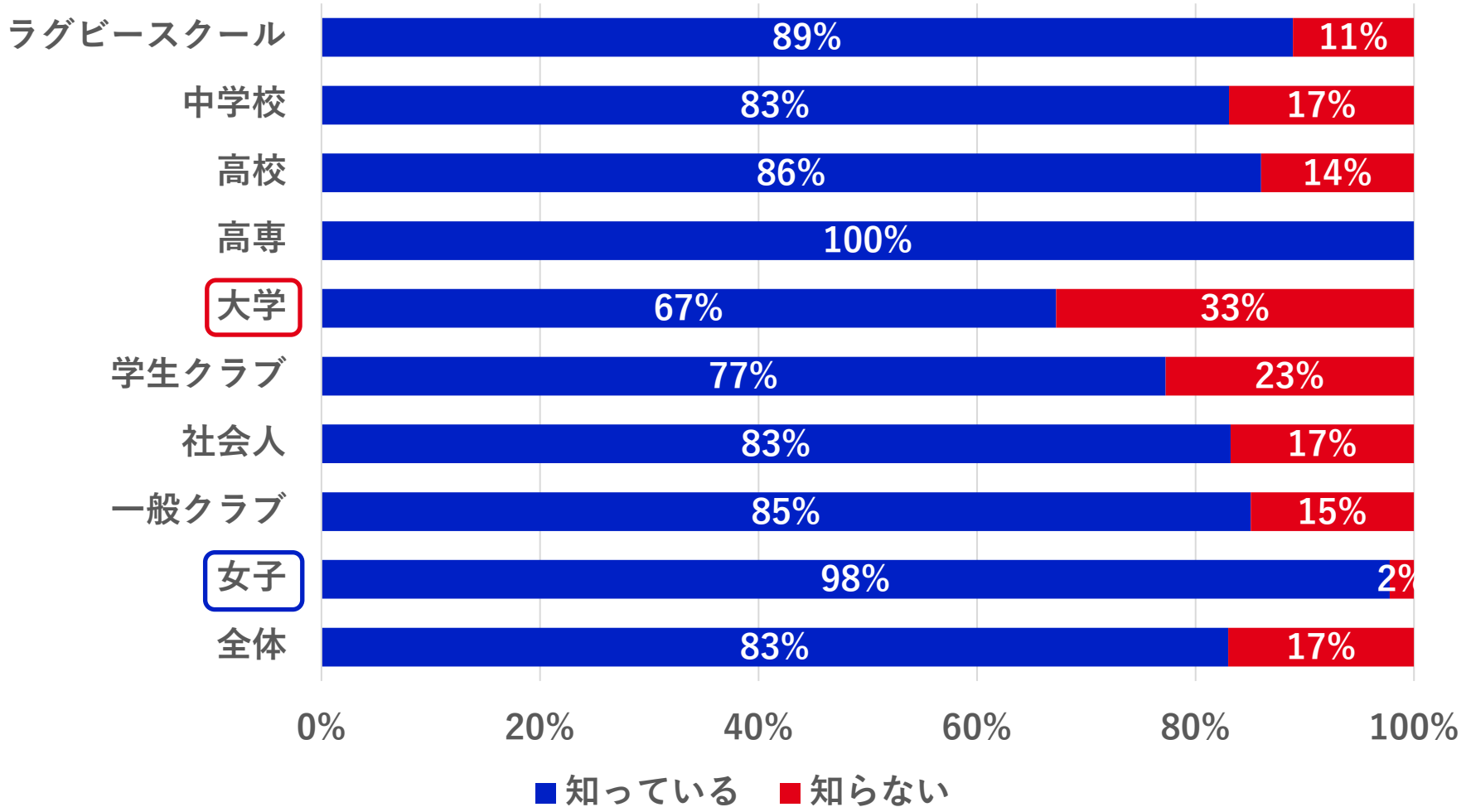
Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

6. 日本協会の取り組み

日本協会のインテグリティ相談窓口（2018年開設）とホームページ、セーフガーディングの取り組みの認知度を調査しました。

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

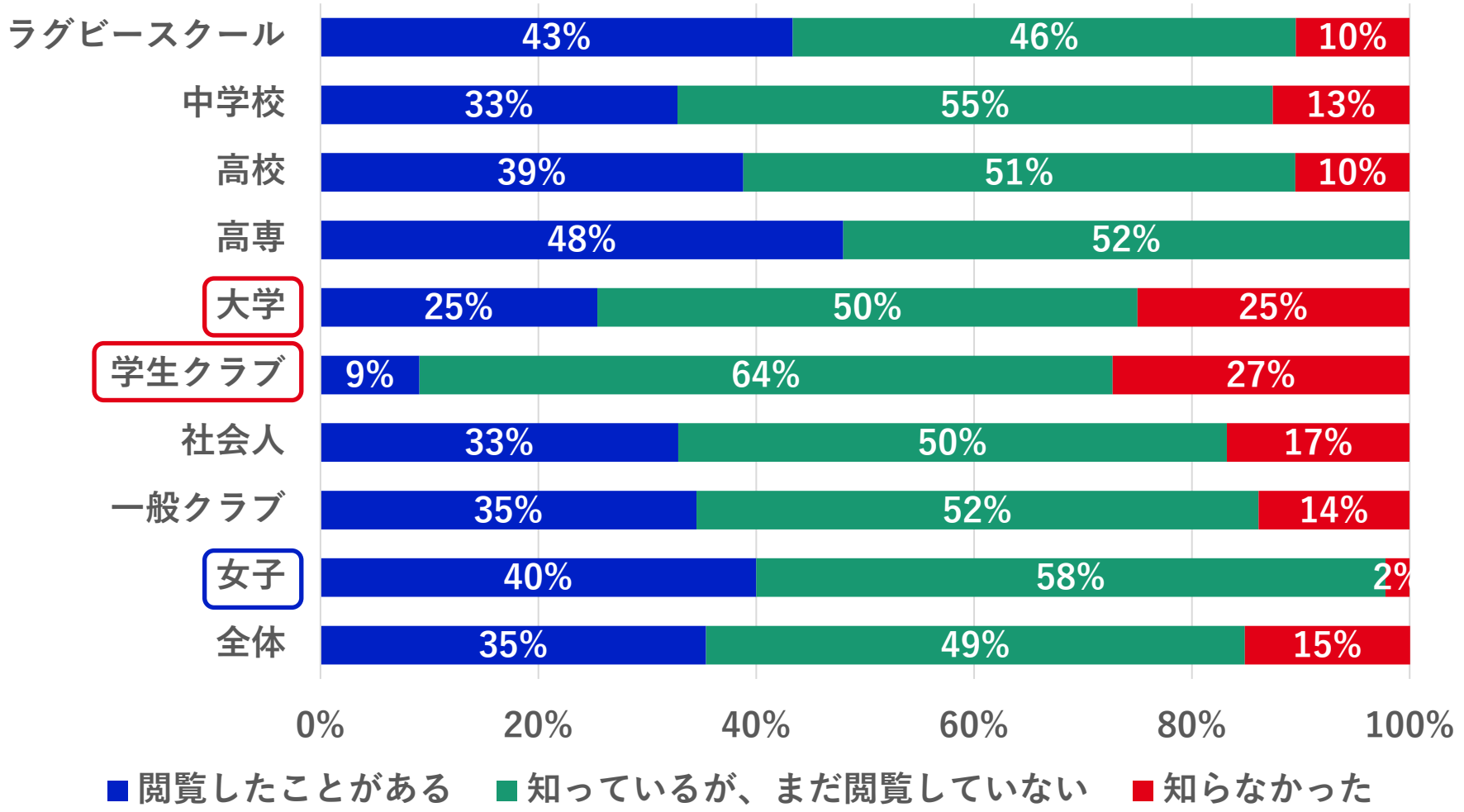
インテグリティ相談窓口の認知度



- 全体の認知度は昨年同様
- 大学(昨年84%)を除く全てのカテゴリーで認知度が増加◎
- 特に女子(昨年85%)は13pt増加◎

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

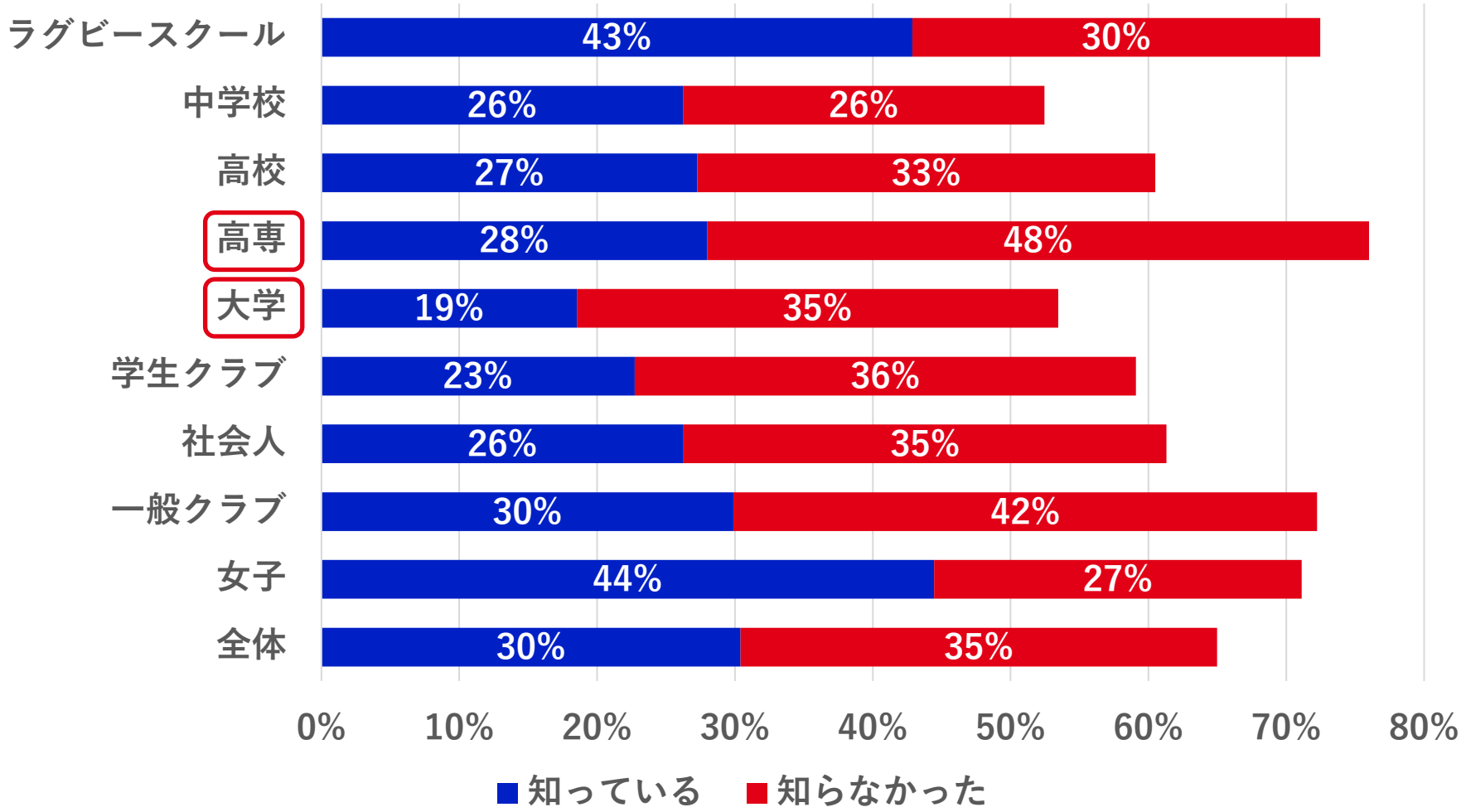
インテグリティ追求の方針のHPへのアクセス



- 全体の認知度・閲覧率は昨年同様
- 大学と学生クラブでは、認知度(昨年89%, 91%)閲覧率(昨年45%, 24%)が共に低下
- 女子は閲覧率(昨年20%)が倍増◎

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

セーフガーディングの認知度



- 無回答が多く100%にならなかった
- 昨年は全カテゴリーで約50%だった
- 有効回答の中では高専と大学の認知度が低い

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

7. 日本協会へのご意見等

日本協会に対するご意見・ご要望をお寄せいただきました。

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.

日本協会へのご意見・ご要望

研修・啓発活動

- 研修や情報提供を今後も継続
- 最新情報の追加
- 全国のチームが定期的に学べる機会の提供
- ラグビー関係者だけでなく一般のスポーツ指導者・保護者に向けた発信

事例・教材の紹介

- 具体的な違反事例と処分・解決までの経過の共有
- チーム内研修でそのまま使える資料や動画の提供
- チェックシートや行動基準のひな型の提供
- ヒヤリハット事例を定期的に紹介

相談窓口と対応体制

- 相談窓口をもっと分かりやすく周知
- 匿名で相談できる方法を用意してほしい
- チームだけでは解決できない事案の支援
- 相談や通報に対する迅速かつ公平な対応

処分・透明性

- 重大な違反への厳正な対応
- 処分の判断基準や対応経過を可能な範囲で公表
- リーグワンや大学など影響力の大きいカテゴリーにも徹底
- 代表やトップ層が模範となる行動を示してほしい

その他

- 現場に足を運んでほしい
- 外国人選手のサポート
- アンケートの簡易化

Copyright © Japan Rugby Football Union. All rights reserved.